

大館の歴史散歩

地域の事跡
と人 ⑤

郷土の宝を追ひ求めて

小野進

小野進は、昭和二年(一九二七)四十歳で大館中学校教諭心得となり、昭和十三年まで博物理科の教鞭を執り、昭和二十四年には再び大館鳳鳴高校に戻って講師を勤めた。多感な青春期に進の薫陶を受け、研究に対する強烈な姿を目に焼き付けた大館・北鹿人は少なくない。

進は、大正十五年(一九二六)小坂小学校訓導時に秋田県史蹟名勝天然記念物調査会委員を拝命し、八幡平や十和田湖、北鹿地方をわが庭のごとく駆け巡り、



豊かな自然に深く親しんだ。進にとって北鹿の自然はまさに樂園そのもので、研究一途の人生の中でも絶頂期を送っている。

大館市には、長走風穴高山植物群落(大正十五年指定)、秋田犬(昭和六年)、ザリガニ南限生息地(昭和九年)、芝谷地湿原植物群落(昭和十一年)、声良鶏(昭和十二年)、比内鶏(昭和十七年)と、六件の国指定天然記念物がある。それらは昭和初期に集中して指定を受けていて、この時期、大館の地は全国の博物研究の中心地であった。天然記念物の国指定には多くの関係者が奮闘した結果であったが、その中核をなした一人が進であった。

進は、昭和二年に『自然の国宝と日本人』を刊行したのを始まりに、『名勝男鹿』(昭和七年)、『秋田犬・奥羽北海の動物を語る』(昭和九年)、『秋田の動物を語る』(昭和十一年)、『忠犬ハチ公頌賦』(昭和十二年)などを精力的に世に出した。『青少年諸君の好伴侶とし『旁々世の同好者の御愛読を希ふもの』

『青少年の精神の糧として活用されるやう世の識者並に教育家に望み』(『秋田の動物を語る』の序)と刊行されたもので、進の心底にあった「郷土の宝は日本の宝、日本の宝は世界の宝」を十二分に吐露した著書である。

大館の地に大きな足跡を残した進ではあったが、彼の晩年はあまり恵まれず、不遇のうちに昭和二十八年六月二日、秋田市で六十六歳の生涯を終えた。生地である本荘市の永泉寺に永眠している。

【参考文献】渡部誠一郎『野を駆ける夢』秋田魁新報社、小野進『秋田犬・奥羽北海の動物を語る』小野進著作刊行会、小野進『秋田の動物を語る』秋田民衆新聞社、『大館市史』第三巻(下)

市役所史跡探訪会

私の本棚

中央図書館新着図書

『菅江真澄 秋田の旅』

田口昌樹 著 秋田文化出版

三河の国を出発し北へ進路をとり、人生の大半を旅に明け暮れた菅江真澄。地理、歴史、考古学や本草学など、博学の目を通して見た江戸期の秋田を絵と文章でつぶさに紹介した一冊。



一般書

◇少年給士(高橋揆一郎)◇手塚治虫はどこにいる(夏目房之介)◇天正十二年のクロディウス(井沢元彦)◇つついの発言(山藤章二)◇四万十川を撮る(大塚高雄)◇錆びた浮標(北方謙三)◇シングルライフ孤独を生きる(大原健士郎)◇聞き書きみちのく職人衆(野添憲治)◇コヨーテ老人とともに(アンゲロ)◇お母さんの金メダル(河西昌枝)ほか

児童書

◇世界の台所(宮崎玲子)◇しりたがりのこひつじ(サンドガード)◇トリアングル(しんどうぎんこ)ほか

9月のテーマ関連図書コーナー

『シルバーライフ』

親子読み聞かせ会

毎月第1金曜日 午後2時30分から

中央図書館の休館日

9月20日、23日、24日、10月10日、18日

クイズ 広報 おおだてがヒント

▽問題

- ①交通安全全市民大会の開催は毎月何日?
- ②10月3日、4日に開村されるきりたんぼ村の会場はどこ?
- ③秋田三鶏は声良鶏、比内鶏と何?
- ④今年度2回目の「ふるさと探検号」は10月18日。申し込み受け付けはいつから?
- ⑤市には国指定天然記念物がいくつある?

▽応募方法

ハガキに住所、氏名、年齢、性別、答え(例)①—②—を書いてご応募ください。

▽締め切り

9月28日(月) 当日消印有効

▽応募先

〒017大館市字中城20番地

広報おおだてクイズ係

※全問正解者の中から抽選で5人にオリジナルテレホンカードを贈ります。

▽8月16日号の答え

- ①中央公民館 ②FRP ③約4万平方メートル ④マウンテンバイク ⑤9月5日

▽8月16日号の当選者

- ・畠山智子さん(豊町)
- ・畠山勤さん(城西町)
- ・佐藤君子さん(川口)
- ・武田直樹さん(高村)
- ・笹木ヒデさん(一心町)

※応募総数49、全問正解者47人。